

13



◀昭和初期下山稲荷神社



▲千歳丸遭難碑

下山稲荷神社と千歳丸 遭難碑

稲荷神社は下山の鎮守^{ちんじゅ}さまで松ヶ崎浜村が移転するまでは同村の鎮守でした。創立は松ヶ崎浜集落ができた西暦1600年代初めと考えられます。神社は砂丘の東端にあり享保16年(1731)春までは目前を阿賀野川の本流が流れていました。

大正7年(1918)9月、千歳丸^{ちとせまる}はカムチャッカ半島での鮭^{さけ}鱒^{ます}漁からの帰途利尻島^{りしりとう}に寄港し、翌日函館^{はこだて}に向け出航し台風にあい、消息を絶ちました。乗っていた63人と船体は見つかりませんでした。遭難者の多くは下山と周辺の出身者で、遭難碑^{そうなんひ}は北洋出稼ぎで生活を支えざるを得なかった厳しい暮らしを物語っています。